



新任教員対象 授業研究「英語リーディング」を参観

【TOPICS】

- ★授業評価アンケート結果をもとに
次年度に向けた「授業改善計画報告書」作成へ
- ★今年で11回目を迎えた
「日本大学学生 FD CHAmmiT(ちゃみっと)」
あなたにとって大学とは何ですか？
～日大教育の未来を語ろう～

FD 委員会では FD ニュースを通して、より多くの教員と学生に本学の FD 活動や教員の教育に対する考えをひろめることにより、本学部の教育環境改善に役立てば幸いです。

目次

- [表紙（1 ページ）](#)
- [令和5年度 FD 講演会（1 ページ）](#)
- [令和5年度授業評価アンケート（2 ページ）](#)
- [日本大学学生 FDChammiT 開催（2 ページ）](#)
- [授業研究（3 ページ）](#)
- [ランゲージラウンジ（3 ページ）](#)

ご挨拶

令和5年度は、対面授業が再開し、ようやくキャンパスにも、いつものような活気が戻ってまいりました。

本学部における本年度の取組として、フルブライト招聘講師による FD 講演会や新任教員を対象とした授業研究などが実施されました。また本年度は、対面授業が再開されたこともあり、授業評価アンケートの回収率も大きく上昇しました。アンケートとその結果を教員にフィードバックし、それらに基づく次年度に向けた「授業改善計画書」に役立てたいと思っています。

一方で、学生が主体となって運営する「学生 FD CHAmmiT」も本年度は対面方式で開催されました。学生からの要望を纏めた「学部提案書」が作成され、それに基づき本学部で改善ミーティングを対面とオンラインのハイブリッドで開催しました。参加した学生と教員、職員とが活発な討論を行い、授業改善報告書も完成しました。

今回発行されます FD ニュースを通じて、本学の FD 活動や教員の教育に対する考えの理解を深め、教育環境改善と充実の一助になればと願っています。

FD 委員会委員長 蓼沼 智行

令和5年度 FD 講演会

第1回

演題：『インクルーシブ（包括的）で、アクセシブルな学習環境をどのように作るか』

講師：フルブライト招聘講師 Emily Stones 教授

アメリカの教育現場で、さまざまな事情や背景をもつ学生たちに対して、平等に知識や機会を提供することができるような設備・環境、そしてそれらが簡単に手の届くようにするためのさまざまな工夫についてご講演いただいた。特にさまざまな障がいを持つ学生に焦点を当て、彼らが教育を受ける際に出会う困難、またそうした困難を克服するために教育現場に導入されているユニバーサルデザインの原則についての紹介など充実した FD 講演会となった。

第2回

演題：『GPS-Academic 結果からみる8つの力習得度・貴学の特長について』

講師：株式会社ベネッセキャリア 森岡 祥悠 氏

中央教育審議会による「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」で掲げられたように、人口減少等により、今後の社会の姿が予測不可能な時代における将来も持続可能な大学のあり方として、内部質保証の確立や教学マネジメントの考え方、多面的な可視化等が求められることとなった。これらを背景に、本学では令和5年度より「GPS-Academic」を導入したが、実際の学生の受検結果から考えられる傾向や対策等を学ぶ機会となり、教職員にとって非常に有益な情報をえることができた。

FD 講演会の資料（抜粋）



Why don't students disclose?

16

- Internalized stigma or fear of being seen as unintelligent or lazy
- A desire to establish an identity independent of disability status
- Downplaying or underestimating how important accommodations are for their academic success
- Cost of diagnostic testing
- Doesn't understand the importance of self-advocacy to navigating university-level accommodations

改正障害者差別解消法の施行を受け、私立大学でも合理的配慮の提供が義務化(R6.4.1より)。

GPS-Academic 初年項目			GPS-Academic 1-Career		
問題解決能力	客観評価	主観評価	GPS-A 測定項目		能力の3要素
			批判的思考力	創造的思考力	思考力
			・問題を自ら発見する ・論理的に組み立てて表現する ・自身の経験・知識を駆使する	・問題を発見する ・問題を解決する ・問題を解決する	思考力 創造力
			コミュニケーション力	自己管理能力	・自分の意見・考えを伝える ・相手の意見・考えを理解する ・自分の意見・考えを伝える
姿勢・態度	客観評価	主観評価	自己管理能力	対人関係力	経験
			・自分の学習計画を立てる ・自分の学習計画を実行する ・自分の学習計画を評価する	・自分の意見・考えを伝える ・相手の意見・考えを理解する ・自分の意見・考えを伝える	・自分の経験・知識を駆使する ・自分の経験・知識を駆使する ・自分の経験・知識を駆使する
			・自分の意見・考えを伝える ・相手の意見・考えを理解する ・自分の意見・考えを伝える	・自分の意見・考えを伝える ・相手の意見・考えを理解する ・自分の意見・考えを伝える	・自分の意見・考えを伝える ・相手の意見・考えを理解する ・自分の意見・考えを伝える
			・自分の意見・考えを伝える ・相手の意見・考えを理解する ・自分の意見・考えを伝える	・自分の意見・考えを伝える ・相手の意見・考えを理解する ・自分の意見・考えを伝える	・自分の意見・考えを伝える ・相手の意見・考えを理解する ・自分の意見・考えを伝える
面接調査アンケート		学生意識		新入生用 or 在校生用	卒業生用
				・大学の教育・研究・社会貢献 ・大学の教育・研究・社会貢献 ・大学の教育・研究・社会貢献	・大学の教育・研究・社会貢献 ・大学の教育・研究・社会貢献 ・大学の教育・研究・社会貢献

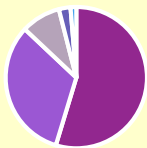
「問題解決力」を思考力、姿勢態度、経験、学生意識調査の4領域で可視化が可能となった。

令和5年度授業評価アンケート

■5強くそう思う ■4そう思う ■3どちらでもない
■2そう思わない ■1全く思わない

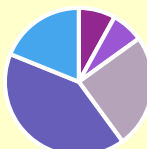


教員は学生からの理解度や反応に配慮して授業を進めましたか。
平均→4.40(学部), 4.48(短大)



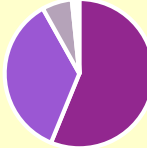
「5.強くそう思う」、「4.そう思う」で85%の割合を占めました。この結果から学生の理解度に応じた授業展開ができていることがわかりました。

この授業科目の授業を1回受けるに当たり、授業時間以外で学修(予習, 復習, 課題等)にどのくらい取り組みましたか。
平均→2.47(学部), 2.35(短大)



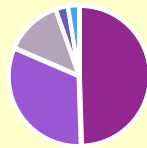
「2.1時間未満」が41.19%で一番高く、授業の予習・復習の時間が十分に確保できていない結果となりました。また学修に2時間以上の時間を確保した学生は、全体の割合で残念な結果となりました。

この授業はシラバス通りに展開されていましたか。
平均→4.48(学部), 4.53(短大)



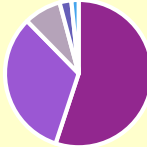
約9割の学生がシラバス通りに展開されていると感じていました。本授業評価アンケートの学生からの自由記述欄にシラバス通りの授業を望む声が寄せられていました。

課題(レポート, 小テスト等)に対し、担当教員から学生へのフィードバック(評価や講評等の開示)はありましたか。
平均→4.28(学部), 4.41(短大)



課題のフィードバックは、理解度向上や知識の修得に大きな影響を与えます。本アンケートでは、課題へのフィードバックがあったと感じた学生が8割いたことを嬉しく思います。

この授業は総合的にみて満足度は高かったですか。
平均→4.40(学部), 4.49(短大)



「5.強くそう思う」、「4.そう思う」で85%を超える割合を占めました。総合的な満足度が高い結果となりましたが、先生方には次年度への改善により学生から更なる満足度を得ていただきたいです。

ご協力ありがとうございました！
授業評価アンケートの回答数が大幅に伸びました！

令和5年度より対面授業が完全に再開となりました。キャンパスは多くの学生で溢れ、本来の学びの環境が戻ったことを嬉しく思います。

FD委員会では年次計画の1つとして授業評価アンケートを毎年実施しています。授業評価アンケートは、各先生方の授業内容の振り返りや改善に向けて検討など非常に重要な材料となります。

ところが、コロナ禍以降、回答率は著しく減少し、教員へのフィードバックは十分に行き届かない状況となってしまいました。そこで、令和5年度から対面授業再開を受け、授業評価アンケートの実施方法を見直した結果、多くの学生の声が反映されることとなりました。

昨年度まではGoogleClassroomから回答するよう学生に指示していましたが、今年度は先生方にご協力いただき、QRコードが記載された用紙を授業ごと配付いただきました。その結果、前学期授業評価アンケート結果の回答率は、前年度比で学部が2.8倍、短大が2.2倍に上昇しました。

例年よりも多くの学生からの声が先生方の基に届くことは授業改善に大きく役立てられると思います。授業改善計画報告書を活用し、更なる教育の質の向上に繋がれば幸いです。

日本大学 学生 FD CHAmmiT 開催

令和5年9月10日(日)開催



日時：令和5年9月10日(日)
場所：日本大学 通信教育部 1号館

日本大学学生 FD CHAmmiT は無事に本番を迎えることができました。今年は『あなたにとって大学とは何ですか？～日大教育の未来について語ろう～』というテーマで、一般参加の学生や学生スタッフ、卒業生及び教職員 合計245名が参加しました。

『あなたにとって大学とは何ですか？～日大教育の未来について語ろう～』をテーマに白熱したしゃべり場を展開！

セッション1

『大学で①何を②何のために③どのように学びたいと思う？』最初のセッションは、学部混合で「大学で学ぶ目的」を議論。そして、授業環境での良い点、改善点、要望を振り返ることでセッション2～3に反映。多くの参加者が初対面ということも忘れ、楽しそうに盛り上がっていたようです。

セッション2

『あなたが大学に望む教育は何ですか？』～あなたの理想は達成できていますか？～

セッション1の内容を活かし、このセッションからは学部ごとに議論を重ねます。日大教育の理想と現実の差から、自学部の問題点・改善点を可視化することで、理想の教育が見えてきたようです。

セッション3

『あなたにとって、理想の大学とは何ですか？』～学部への提案～

今年度の提案書作成に向けて、学部の良い点・悪い点の意見交換をします。その後、「理想の学部にするための提案」及び「日大教育の未来のビジョン」の2つに分けて学部提案書を作成します。

国際関係学部・短期大学部(三島校舎)では学部提案書に基づく回答書を作成のために11月8日(水)及び12月21日(木)の2回にわたる事後ミーティングを実現に向けて意見交換を行いました。実施しました。参加人数は以下のとおりです。

第1回 15名 参加(以下内訳)
学生7名,卒業生1名,教員5名,職員5名

第2回 15名 参加(以下内訳)
学生4名,卒業生1名,教員5名,職員5名

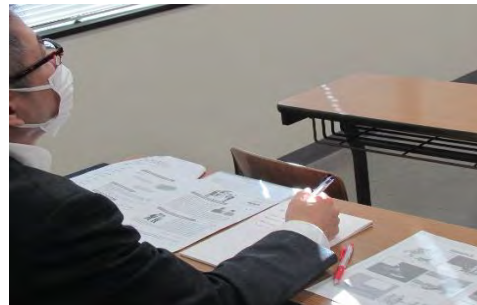
コロナ禍から続いていたオンライン授業から対面授業が再開され、学生の学ぶ環境は大きく変わりました。その中で、事後ミーティングに参加した学生・教職員から貴重なご意見を伺い、それに真摯に向き合えたことで、非常に価値のある事後ミーティングとなりました。

今回の事後ミーティングにより実際に学部提案書の要望に応じることができた項目もあります。これは、学生のみなさんの声が届いた結果であると考えています。皆さんのキャンパスライフがより素晴らしいものになるよう今後もご意見・ご要望に前向きに検討し、改善を図って参ります。参加者の皆様、ありがとうございました。

授業研究

FD 委員会の年次計画には新任教員を対象とした授業研究があります。

授業研究は、①新任教員が希望する授業を参観、②FD 委員が新任教員の授業を参観の双方を行います。新任教員は、希望した授業の参観後に「教材、授業、学習、授業内容」を観点とした報告書を作成し、FD 委員会で報告されます。また、FD 委員は、新任教員の授業を参観し、「声の大きさ」、「適切な表現」、「熱意」、「授業の進め方」、「質問への対応」、「板書」、「教科書・配付物」の7つの点について5段階で評価し新任教員へフィードバックを行います。フィードバックされた内容を今後の授業に活用いただけると幸いです。なお、今年度の対象者は、吉田典弘先生、芳賀理彦先生、細井健先生、笹生美貴子先生でした。



芳賀先生が生内先生の授業を参観

①新任教員が希望する授業を参観

吉田先生が希望した授業→「ビジネス・インテリジェンス」オリビエ先生

芳賀先生が希望した授業→「英語リーディング」生内先生

細井先生が希望した授業→「英語音声学」大井川先生

笹生先生が希望した授業→「現代言語学」大川先生

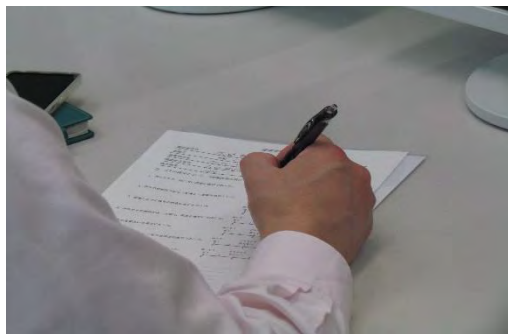
②FD 委員が新任教員の授業を参観

吉田先生が受け入れた授業→「プログラミング」(佐野委員、石川委員)

芳賀先生が受け入れた授業→「英語コミュニケーションⅠ」(佐藤委員)

細井先生が受け入れた授業→「英語学」(武井委員)

笹生先生が受け入れた授業→「文学」(角田委員、橋本委員)



FD 委員が報告書を記入



吉田先生の「プログラミング」を参観



ランゲージラウンジ

6 言語が次々と開催！ 徐々に学生に浸透！

語学教育検討委員会が主催しているランゲージラウンジが2年目を終えました。昨年度は英語、スペイン語のみの開催となりましたが、今年度は6言語で開催！！1年生から2年生に進級するタイミングで、多くの学生に語学を継続してもらいたい、同じ言語を学ぶ仲間を増やしてもらいたいなどの思いを目的として開催しています。次年度も引き続き開催を検討しています。



英語・スペイン語・フランス語・ドイツ語・韓国語・中国語の主要6言語の「ランゲージラウンジ」。その言語を履修している人もしていない人も気軽に立ち寄って、その国独自の言語や文化に触れられる場所として、大いに賑わいました。華やかなポスター(左)にその概要が記されています。



← 中国語ランゲージラウンジ柳先生と学生が楽しく会話



フランス語ランゲージラウンジには、ネイティブ教員も参加 ↓

